

南魚沼版CCRC構想

カレッジリンク・新設移住型

地域特性：田園地域型

地域的広がり：エリア型

住み替えパターン：大都市移住型



2016.8 新潟県南魚沼市

CCRC プラチナタウン と地方創生

CCRC(プラチナタウン)とは？

Continuing Care Retirement Community の略称で、日本語に訳すと「継続的なケア(介護・医療)を提供する高齢者向けコミュニティ」という意味です。

CCRCの先進地、アメリカでは1970年代から登場し、現在は約2千カ所で約75万人が暮らしていると言われています。CCRCはプラチナタウンとも呼ばれています。

中高年齢者が元気なうちに移住し、介護や医療を含め、健康状態に合わせて最適なサービスを受けながら、人生最期の時までを過ごせる生活共同体です。

地方での地域活性化に向けて...

人口減少高齢化対策として2014年12月27日に出された「まち・ひと・しごと創生」において、地方への新しい人の流れを創る施策として日本版CCRCの検討が進められています。

高齢者のニーズが健康だけではなく、知的欲求の充足や消費行動にも広がっていることから、「生涯活躍のまちづくり」として地域活性化につながるよう、地域資源を最大限に活用して、様々なサービスと提携したCCRCが検討されています。

南魚沼版CCRC構想…

①高い交通利便性、②豊かな(特色ある)自然環境、③高度医療を核とした地域医療、④国際大学や北里大学保健衛生専門学院などの教育機関との密接な連携を強みとして、東京圏などの現役を含むアクティブな中高年齢者が元気なうちに移り住み、医療、介護サービスや健康づくりの提供体制が確保された中で、安心して暮らし、地域において新たな産業の創出や雇用を生みだす仕組みづくりとして進めています。具体的には、拠点施設整備のほか、移住者それぞれが能力を活用したセカンドライフとしてのビジネス展開や、ボランティア参加、地域コミュニティと関わりなどを「地域再生計画(H32年度までを予定)」として定め、計画推進法人を設立して進捗管理しながら進めます。

南魚沼版CCRC構想の特徴

～産業振興、教育環境の向上、健康のまちづくりなどを共働で進める人材として移住～

| 従来の高齢者施設 | | 南魚沼版CCRC |
|-------------------|--------|---|
| 要介護状態になってから居住 | 居住の時期 | 健康時から居住し、居住後も健康維持活動に意欲的に取り組む |
| 医療・介護サービスの受け手 | 高齢者の生活 | 中高年齢者を対象とし、地域で仕事、社会活動、生涯学習などに積極的に参加 コミュニティを共創 |
| 住宅内で完結し、地域との交流がない | 地域との関係 | 地域に溶け込んで、多世代・多文化と交流・協働 まちづくりの人材として活躍 |

南魚沼版CCRC構想による効果・影響の分析

南魚沼版CCRC構想で目標の400人が移住した場合の50年間の効果や影響を推計試算
 ⇒将来的な介護医療の負担があっても、経済効果や市民税収入なども見込まれる

| 移住者の受入に伴う 効果影響分析の結果 | ④移住者400人の受入 目標を達成した場合 | |
|------------------------------------|----------------------------------|----------------------|
| 平均移住者数のピーク | 399人(ピーク:3年目) | |
| 要介護3以上のピーク(90%値※) | 48人[12%] (ピーク:22-23年目) | |
| 南魚沼市の医療・介護費負担 (90%値※)(50年間の累積額) | 7.9億円 (ピーク:21年目) | |
| 介護人材必要人員のピーク (90%値※) | 8人 (ピーク:19-24年目) | |
| 移住者の直接消費額 (50年間の累積額) | 156.1億円 (ピーク:1年目) | |
| 経済波及効果 | 南魚沼市への波及効果 (10%値※)(50年間の累積額) | 8.9億円 (ピーク:3年目) |
| | 魚沼圏域への波及効果 (10%値※)(50年間の累積額) | 24.9億円 (ピーク:3年目) |
| | 新潟県全体への波及効果 (10%値※)(50年間の累積額) | 340.9億円 (ピーク:3年目) |
| 社会保険料収入 (10%値※)(50年間の累積額) | 19.4億円 (ピーク:3年目) | |
| 市民税収入 (10%値※)(50年間の累積額) | 11.2億円 (ピーク:3年目) | |

※試算結果は、様々なパターンの想定により試行した結果に基づくものです。

※400人(50-54才:40人、55-59才:40人、60-64才:80人、65-69才:120人、70-74才:80人、75-79才:40人)

※移住者の社会保険料、市民税を除く年間消費可能額を240万円として計算しています。

※●%値:100回のシミュレーション結果で得られた値を小さい順に並べた、全体で●番目に小さい値。(例:90%値:90番目に小さい値=10番目に大きい値)

※魚沼圏域:南魚沼市、魚沼市、十日町市、湯沢町、津南町

※介護保険の住所地特例はないものとして推計しています。

※介護人材は、地域包括ケアシステムとの連携の中で確保を進めます。

南魚沼市の地域資源

① 東京圏から近い



【上越新幹線】

〈東京駅から〉

越後湯沢駅まで：約1時間20分

浦佐駅まで：約1時間30分

【関越自動車道】

〈練馬ICから〉

塩沢石打ICまで：

175.5km 約2時間00分

六日町ICまで：

186.9km 約2時間05分

大和SICまで：

198.3km 約2時間15分



魚沼盆地



南魚沼産コシヒカリ



市内のスキー場

② 四季の彩り豊かな自然・観光資源

彩り豊かな四季の風景。



春



夏



秋



冬

豊富な観光資源

越後浦佐毘沙門堂



温泉



三国街道塩沢宿 牧之通り



魚沼の里



るるぶ 南魚沼

自然（雪）が育む「食」、「衣」

雪と清涼な水に育まれた地味豊かな「食」と雪国育った「衣」があります。

豊富な山菜



南魚沼産コシヒカリ



地酒



越後ワイン



八色スイカ



越後上布・塩沢紬



自然（雪）が育む「文化」、「交流」

雪国ならではの冬にちなんだ「文化」が多く、
その他の季節も四季折々の「文化」、「交流」が盛んです。

3月3日浦佐裸押合大祭
(1200年の歴史)



越後上布の
雪さらし



2月しおざわ雪譜まつり
(鈴木牧之生誕地)



雪解け水の恵み
グリーン・ツーリズム



③ 特色ある教育機関



理念：「国際社会で活躍できる高度な専門的知識を持った職業人の育成」

- ・国際大学（IUJ）は、1982年に日本初の大学院大学として誕生
- ・開学当初からすべての授業が英語、9月入学制を導入し、原則としてキャンパス内での全寮制
- ・世界に門戸を開き、学生の約85%が外国人留学生⇒日本人学生が多数派でない環境が特徴
- ・国際関係学研究科と国際経営学研究科の2研究科
- ・教育・研究体制、学生の受入れ・送出しなど、多くの面で高評価
- ・2013年4月には、学校法人明治大学と系列法人の協定を締結
互いの教育資源を共有、連携することで、世界トップクラスのグローバル・ユニバーシティを目指す



世界各国から集う学生たち

- ・浦佐キャンパス 〒949-7277
新潟県南魚沼市国際町777番地
電話：025-779-1111
Email：media@iuj.ac.jp
<http://www.iuj.ac.jp/ja/>
- ・東京事務所 〒106-0032
東京都港区六本木6-15-21
ハークスビル2F
電話：03-5770-1711

国際大学の特徴

英語による
授業科目率

100%

外国人留学生を対象とした「日本語」科目を除いて、すべての科目を英語で開講し、学業に必要なすべての情報を英語で周知しており、学内の公用語となっています。

現在、国際関係学研究科と国際経営学研究科に計7プログラムが設置されており、全プログラムが英語による授業科目のみで修了できます。

英国「The Economist」誌
ビジネススクールランキング

世界**90**位 アジア**6**位

英国の経済誌「The Economist」による2015年のビジネススクールランキングで、国際経営学研究科のMBAプログラムは世界90位、アジア6位の評価を得ています。

国際大学の交換留学提携校の多くは、このようなランキングに入っています。世界レベルの教育の質が担保された、国際的なアライアンス内にて学生や教員の受け入れ、送り出しを行い、さらなる多様性の確保と人的ネットワークの強化を図っています。

少人数教育 1科目の
平均履修者数

13.1人

国際関係学研究科と国際経営学研究科では合計199科目を開講し、1科目当たりの平均履修者数は13.1人となっています。また、学生375人に対し、40人の専任教員が在籍し、専任教員1人当たりの学生数は9.3人となっています。

これらの数字は、充実した少人数教育を提供していることを示します。

ABEイニシアティブ第1バッチ
受入れ学生数

第**1**位

国際協力機関（JICA）「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ」により、2015年9月に来日した第2バッチ（329人）では、国内の大学で最も多い39人を受け入れました。

国際大学では、将来を嘱望されるような優秀な学生を多様な奨学プログラムによって受け入れています。

これは国際機関からの信頼の表れと言えます。

グローバル人材
パートナーシップ

55社

日本企業のグローバル人材育成の最重要拠点となるべく、「グローバル人材パートナーシップに関する覚書」を55社と締結しています。

国際大学は、グローバル経営に必要な優秀な人材の育成と供給、産学連携による共同研究・プロジェクトを通じて、国際化が必要な企業と世界の架け橋になることを目指しています。

明治大学

との系列法人化

明治大学は、1881年創立の在学生数3万2000人、卒業生数52万人を越す総合大学であり、日本を代表する大学の一つです。学校法人国際大学と学校法人明治大学は、2013年4月、系列法人化に関する協定を締結しました。

国際大学が持つグローバル・リーダー育成の実績と明治大学の教育資源などを組み合わせることによって、国際大学の特徴をさらに伸ばし、建学の精神をたえず実現、拡充していきます。

外国人留学生の多様性



国際大学では、ミャンマーからの留学生が最も多く、インドネシア、ベトナムと続く
外国人留学生の出身国・地域は多様 約40の国や地域から集う学生によって形成されるコミュニティー
⇒グローバル・リーダーの育成に最適な環境

特色のある交流・セミナーや国際理解教育

国際大学留学生などの若者と地域住民で、様々な交流事業やセミナーを開催しています。



わかもの「井戸端」あれこれ会議



市内小学校で国際科（教育課程特認校）・ホームステイ



国際大学では、国際大学の留学生を講師に派遣し、小学生が世界各国の伝統・文化を学んだり、日本の文化等を外国人留学生に伝えたりする「国際理解教育」を実施したり、海外からのホームステイ受け入れを積極的に行っています。

多彩なイベント

国際大学では学生自治会のメンバーを中心に、四季折々、多彩なイベントを開催
⇒ 地域コミュニティとの協力もあり、日本の文化に触れ、理解する機会に



Would you like to join us?



④ 地域医療連携

地域完結型医療
を支える

高度医療



新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

救命救急・外傷センター



**周産期母子医療センター
(NICU)**

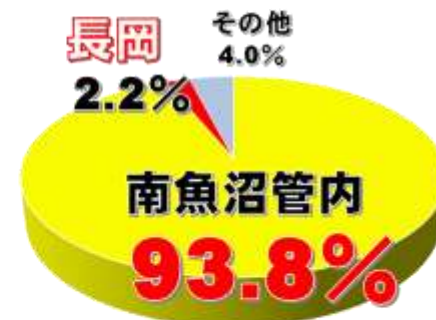


南魚沼地域の救急搬送割合

H26年6～11月 1,476件

H27年6～11月 1,591件

先医療機関調査



**長岡地域への搬送
142件 → 35件**

総合病院 2015年6月開院

診療科31科 454床

高度医療を行うドクター75人

※平成28年1月1日現在

最新の医療設備

魚沼基幹病院と地域医療

地域医療を支える **医療人の育成**

新潟大学地域医療教育センターを併設し、教育病院としての機能を持つ魚沼基幹病院。全国から研修医を受け入れ、地域医療の担い手となる医師の育成を重要な役割の一つとしています。

三次救急、高度医療、周産期医療を担う魚沼基幹病院で教育を受け、経験を積む中で、総合診療医、もしくは総合診療のマインドを持った専門医を育成、地域医療の発展に貢献します。



健康な生活を送るためのコホート研究

魚沼臨床研究センター

住民の人口移動が少ない魚沼地域の特性を活かしたコホート研究について、新潟大学、東京大学などと連携して行います。研究結果は地域に還元し、地域の医療機関と協力して、疾病予防や健康寿命の延伸につなげていきます。

健康な生活を送るためのコホート研究は、CCRCとも関係が深い取り組みと言えます。



地域の医療を支える人を育てる

北里大学保健衛生専門学院



浦佐駅から車で5分の立地に15万㎡のキャンパスが広がる。



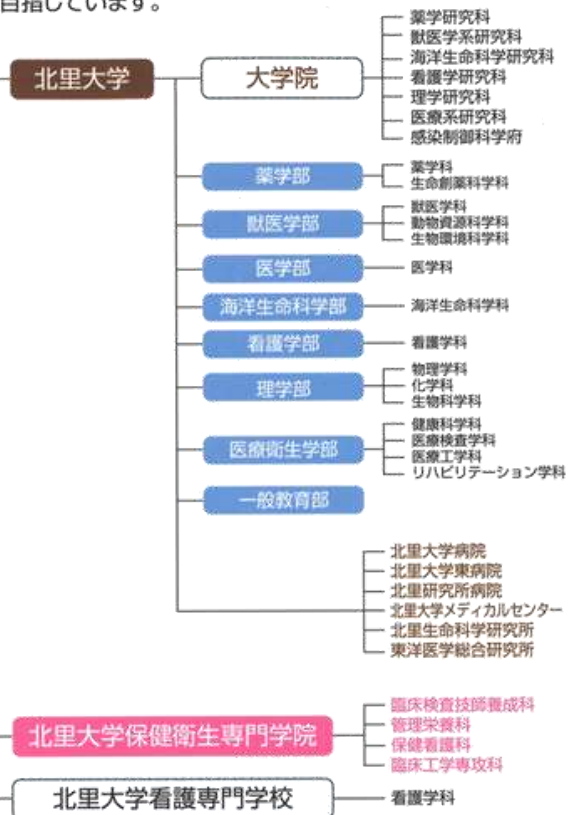
北里大学保健衛生専門学院

「学校法人 北里研究所」は、高度な医療現場に対応する優れた人材の育成を目指しています。

1982年設立 学校法人北里研究所が設置

約6,000名

学校法人
北里研究所



＜幻のノーベル賞＞

第1回ノーベル生理学・医学賞候補者にノミネート。

学祖：北里柴三郎博士の主な業績

＜伝染病等の予防医学に貢献＞

- ・破傷風菌・ペスト・結核
- ・ツツガムシ病（新潟で調査）・血清療法

約850名

約120名

3学科1専攻科（医療系国家資格：臨床検査技師、管理栄養士、看護師&保健師、臨床工学技士）

法人全体で14職種の医療職種を養成

臨床検査技師養成科

3年制(男女)

入学定員/80名
収容定員/240名



管理栄養科

4年制(男女)

入学定員/80名
収容定員/320名



保健看護科

4年制(男女)

入学定員/80名
収容定員/320名



プラス1年で医療系国家資格を取得

臨床工学専攻科

1年制(男女)

入学定員/30名

【入学資格】
本学院臨床検査技師養成科及び保健看護科などの
医療系養成所及び医療工学系大学の出身者



地域の方とのつながりの中で

【学生食堂】



【視聴覚講義室】



【カフェ エスカアル】



【コンビニ】



【体育館】



【図書館】



私たちは、医療の技術とこころを学んでいます。



さらに輝く！みんなで輝く！

南魚沼版CCRCのすがた

みんなで元気に

- ・フィットネスクラブで健康増進、介護予防、病中・病後リハビリ
- ・自家農園で体力維持
- ・医食同源・身土不二・土産土法
- ・デトックス

みんなで楽しむ

- ・雪を楽しむ
スキー・スノーボード、スノーアクティビティ、バックカントリースノートレッキング
- ・登山・トレッキング
八海山（越後三山）
巻機山（日本百名山）
坂戸山（坂戸城634m）
- ・サイクリング（グルメライド）
- ・ランニング（グルメマラソン）
- ・ウォーキング（ナイトウォーク）
- ・山紫水明スケッチ
- ・まつり（浦佐裸押合大祭など）
- ・地酒、山菜、郷土料理、漬物

みんなで担いひらく

- ・ICLOVE（企業経営支援）
- ・WEB観光プロモーション
- ・英語授業ゲストティーチャー
- ・英語サロン、日本語支援
- ・プチホームステイ

みんなで学び高める

- ・国際大学や北里学院の公開講座、講義特別聴講
- ・国際大学図書館開放
- ・雪国文化講座
- ・座禅修行
- ・越後上布技術習得

南魚沼版CCRC

中高年齢者移住者住居

国際大学留学生家族住居

健康増進施設・関連サービス施設
お国自慢レストラン・カフェ（英・日）
英語保育、英語寺子屋
英語サロン…

介護・診療施設

移住定住コンシェルジュ
総合相談・支援

グローバル・コミュニティを創出

- ・克雪利雪住宅
雪冷房
雪室、ワインセラー…
- ・エネルギー域内自給
ペレットストーブ
薪ストーブ
太陽光・小水力発電

●健康・貢献マイレージ●

南魚沼版CCRC構想の進め方

役割分担と連携

CCRCを核に

助言・指導

関係機関

金融機関

マーケティング、マッチング、
資産運用、金融商品開発

助言・協力

各関係団体

国際大学

北里大学

保健衛生専門学院

市民・企業向けセミナーの拡大
スキルアップ、人材育成
生涯学習、国際化推進

行政

- ・社会インフラの整備
- ・移住者の掘り起し(囲い込み)
- ・地域連携・交流
- ・起業・就業支援
- ・コミュニティづくり支援
- ・まちづくり、人材育成
- ・情報発信など

協働

民間事業者

- ・移住者住居や拠点施設の整備
- ・住居や拠点施設の運営・管理
- ・地域連携・交流
- ・飲食や物販テナント管理
- ・各種サービスの提供など

民間企業

事業拡大・発展
新ビジネスへの進出

地域づくり協議会

各市民団体

魚沼基幹病院、
市内医療機関

地域医療・介護連携
地域包括ケアシステム構築

市民

- ・自立を目指した地域づくり活動
- ・移住者との協働やビジネス創出など
- ・健康長寿のまちモデルの実現

介護施設

地域再生計画の策定

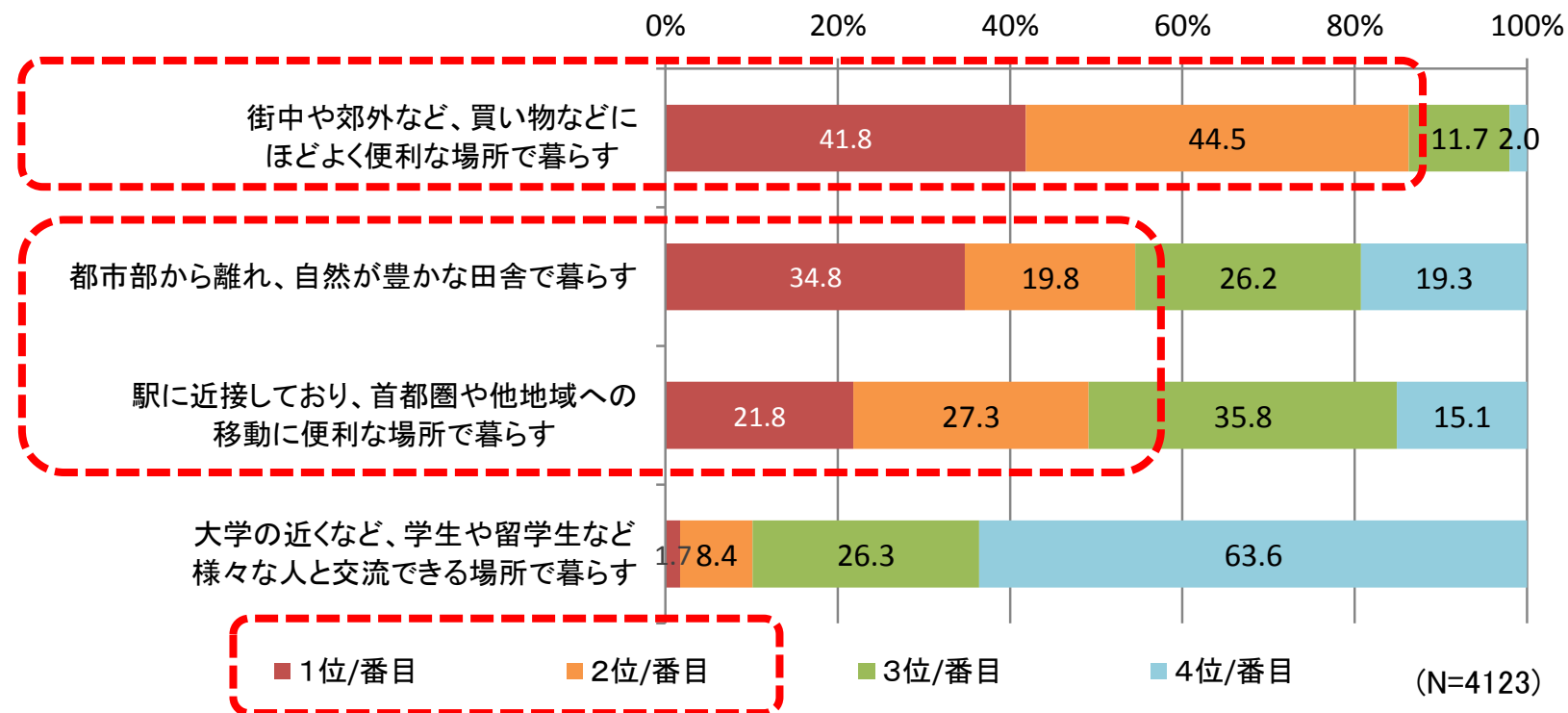
計画推進法人が全体を進捗管理
⇒確実な計画の実現
地域再生法の支援、企業版ふるさと納税

場所選定について（アンケート結果）

南魚沼版CCRC構想推進に必要なニーズを捉えるため、主たるターゲットとなる首都圏住民(4,123人)に「移住先で重視する環境」について質問した結果が以下の通り。

Q17. 地方に移住すると仮定した場合、以下の生活スタイルのうち、どのような暮らしがよいと思いますか。この中で比較し、よいと思うものから順に必ず順位をお付けください。（単回答）

希望する生活スタイルについて見ると、「街なかや郊外など、買い物などにほどよく便利な場所で暮らす」を希望する人の割合が高くなっている。「大学の近くなど、学生や留学生など様々な人と交流できる場所で暮らす」を1位に選んだ人の割合は1.7%と、他の生活スタイルに比べて低くなっている。



想定している規模・位置

規模: 段階的に200戸400人(第1期50戸、第2期50戸、第3期100戸)

位置: 八色の森公園周辺を想定



選定のポイント

● 移住者のニーズから

立地希望は買い物などの日常生活に便利な場所が最多

● 国土交通省「健康・医療・福祉のまちづくり」を市民とともに

輝き続ける人生を送るには基本的な身体活動が確保できる住環境整備が必要

＝生活、医療や介護に係るサービスへのアクセスが適度な距離の範囲内(徒歩圏内)に揃っていることが重要

「生活機能と体力の維持」という土台(＝「健康」、「元気」)でこそ、初めて「+α」の生活が成立

「輝く」ための「前提条件」ともいべき「まちづくり」のスタートライン
何でもそろった施設内に住むと早い段階で「要支援・要介護」になるリスクを負うことに

ビジネスチャンスも消失し、南魚沼市としての基本的市民サービス自体の水準低下にも繋がりがかねない

健康・医療・福祉まちづくり

(国土交通省資料イメージより)

CCRCをモデルに地域包括ケアシステムの構築

(別紙)「健康・医療・福祉まちづくり」のイメージ

住宅地イメージ

【徒歩圏域に確保する都市機能の集約】

- ・コミュニティサロンや集会所、放課後児童クラブ等の福祉・交流拠点に係る機能については、これまで徒歩圏域において中心的な施設となっている商店街や小学校とともに、集約して一体的に機能確保する。
- ・保育所や子育て支援施設と介護施設等を一体的に配置することで世代間の交流を生み出す。

【日常生活圏域に確保する都市機能の集約】

- ・地域包括支援センターや行政サービス施設等については、これまで日常生活圏域において中心的な施設となっている商店街や小学校・中学校とともに、集約して一体的に機能確保する。
- ・公的不動産の再編とともに、各施設の複合利用や合築、空き店舗・空き家等の既存施設の有効利用により土地等の確保に係る初期コストを抑え民間事業者の立地を支援する。

・日常生活圏域に確保する都市機能のうち集約して一体的に機能確保するもの以外の各機能については、概ね 30 分以内でサービスが提供されるよう圏域の中で偏りなく、また、施設相互の連携も念頭に置いて、機能確保する。

- ・このうち利用者が訪れる施設については、徒歩・自転車または公共交通によるアクセスを確保する。

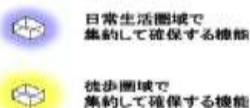


- ・公園や民地の空地等を活用してベンチや水飲場、公衆トイレ等を適切に配置する。
- ・健康の増進や介護予防の場として身近な公園や歩行空間などの社会環境を改善する。

- ・地域の拠点と公園や河川沿いの緑道等を結ぶ歩行ネットワークを構築する。
- ・歩行ネットワーク沿いに日常生活に必要な機能(生鮮食料品店、診療所、薬局、幼稚園等)を確保する。

- ・高齢者の社会参画を促進するコミュニティ活動やコミュニティビジネスの活動拠点づくりを促進する。(小学校空き教室など地域の人が集まりやすい場所を活用)

- ・公共交通のサービス(路線・運行頻度)を向上させる。
- ・バス停への上屋・ベンチ設置など待合空間を充実させる。
- ・公共交通サービスの提供が困難な地域では、地域コミュニティによる交通ネットワークの補完を支援する。



予定地の半径2kmエリア内
上越新幹線浦佐駅、大和SIC、

国際大学、北里大学保健衛生専門
学院、国際情報高校、
大和中学校、浦佐小学校、
浦佐認定こども園、
学童保育大空クラブ、

魚沼基幹病院、市立病院、
浦佐診療所、

消防大和分署、

特別養護老人ホーム、
デイサービスセンター、
通所型リハビリセンター、

市役所大和庁舎(グローバルパーク)、
コミュニティホールさわらび、
南魚沼市大和公民館

普光寺、
浦佐温泉、
越後ワイナリー・ブドウ園、
コシヒカリ圃場 …

地域・市民と交流し、一緒に参加し高め合う

学びの郷南魚沼

南魚沼市の教育基本計画と連携

学びあい、教えあい、伝えあい、そして輝く、わたしと地域

子ども たんけん南魚沼

南魚沼の自然と、そこで人々が築き上げてきた暮らしや歴史・文化を体験的に理解し、その豊かさを五感で認識する。

地域に興味を持ち、さらに深く知り、関わりたくなる気持ちを醸成する。

外国を含む他地域との交流を通じて、互いの地域の価値を共有する。

大人 市民カレッジ

南魚沼の持続的な発展を目指し、市民が互いに支えあうコミュニティを構築する。

地域の人と自然を出発点に、南魚沼に根ざした技と知識を発展させる。

誰でもいつでも学べる環境を整える。高齢者層と若年層との連携が展開される。

高齢者 幸齢義塾

南魚沼で培ってきた長年の経験や知恵・技を引き出しあい、再生しあうことによって次世代と共有していく。

高齢者同士の交流、互いの健康増進、意識の活性度維持も図る。

題材として

- 【自然】 雪 = 遊ぶ, かんじきを作る, 利用する, など
川 = 魚取り, 泳ぐ, 舟 山 = 登る, 歩く, 木を切る, 手入れをする
生き物 = モリアオガエル, ハッチョウトンボ, シナイモツゴなど超1級の生き物
- 【農】 米づくり, 田んぼの仕組み, 多様な野菜, 調理方法, わらの利用など
田の利用の変遷 = 歴史の変遷
- 【食】 山菜, 味噌, 豆腐, どぶろく, 漬物, ハレの食
- 【文化】 山伏, 神社仏閣, 木喰仏, 年中行事(まつりなど)
- 【伝統・工芸】 縄ない, 歌舞伎, 塩沢つむぎ
- 【人】 市民の経験や歩み

学びの仕組み・場

教室・イベント, MOOC (Massive Open Online Course オンラインの公開授業), 自主ゼミナールなど
組み合わせることで

歴史, 文化, 科学, 言語など趣味教養からものづくり, 経営, 健康講座などの実学まで多様なニーズへ対応

南魚沼版CCRC具現化（進捗状況）

(1) 推進協議会 H27～ (H31まで)

| | | |
|-------------|------------|----------------|
| 7月1日第1回会議 | 8月17日第2回会議 | 9月29日第3回会議 |
| 11月20日第4回会議 | 1月27日第5回会議 | 3月22日第6回会議 |
| 6月1日第7回会議 | 7月27日第8回会議 | 9月28日第9回会議（予定） |

- ・移住促進、連携促進、事業化促進の3部会で検討
- ・11月20日第4回会議で基本構想を協議決定
- ・お試し居住を通じて、予備的なプロモーションと、施設、運営への要望把握

・首都圏の企業、団体等パートナーづくり **南魚沼CCRCビジネス研究会** **GITパーク**

(2) 構想推進組織づくり（地域再生計画の推進法人） H28～

- ・移住促進事業（移住・定住プロモーション）
- ・地域内連携促進事業 **地域包括ケア連携**
- ・移住者サポート、移住者能力マッチング及び事業化
- ・施設整備後のCCRC運営主体と連携

(3) 事業連携実施事業者の選定（リスク分担の明確化）

- ・施設整備及び運営主体 運営事業者は地域再生計画推進法人と密接根連携
住宅部分及び関連サービス部分（立地候補地、規模、施設配置、周辺施設など）

(4) 整備スケジュール（素案）

H28.11月末に連携実施事業者決定予定（H29：50戸 H30：100戸 H31：200戸）

（9月末までに「アイデア募集」も実施）

地域の人々・企業の夢と知恵を、幅広く集める

まちづくりアイデア募集

H28.9月末まで

「住まう喜びを感じるまち 南魚沼」を創る仲間になりませんか

【夢づくり部門】（応募者：一般市民、児童・生徒・学生など）

- ・地域を活性化させていくための取り組み、まちづくり方法のアイデア
- ・将来、南魚沼市がどのようなまちになったら良いかという夢やアイデア

【事業づくり部門】（応募者：事業の全体、一部に関わる実施事業者）

- ・CCRC事業全体の枠組みづくり・事業性など、全体的な視点からの提案
- ・移住者コミュニティ向けの各種サービス事業など、範囲を限定した提案
- ・民間事業者の創意工夫を最大限生かせる事業手法づくりに役立つアイデア

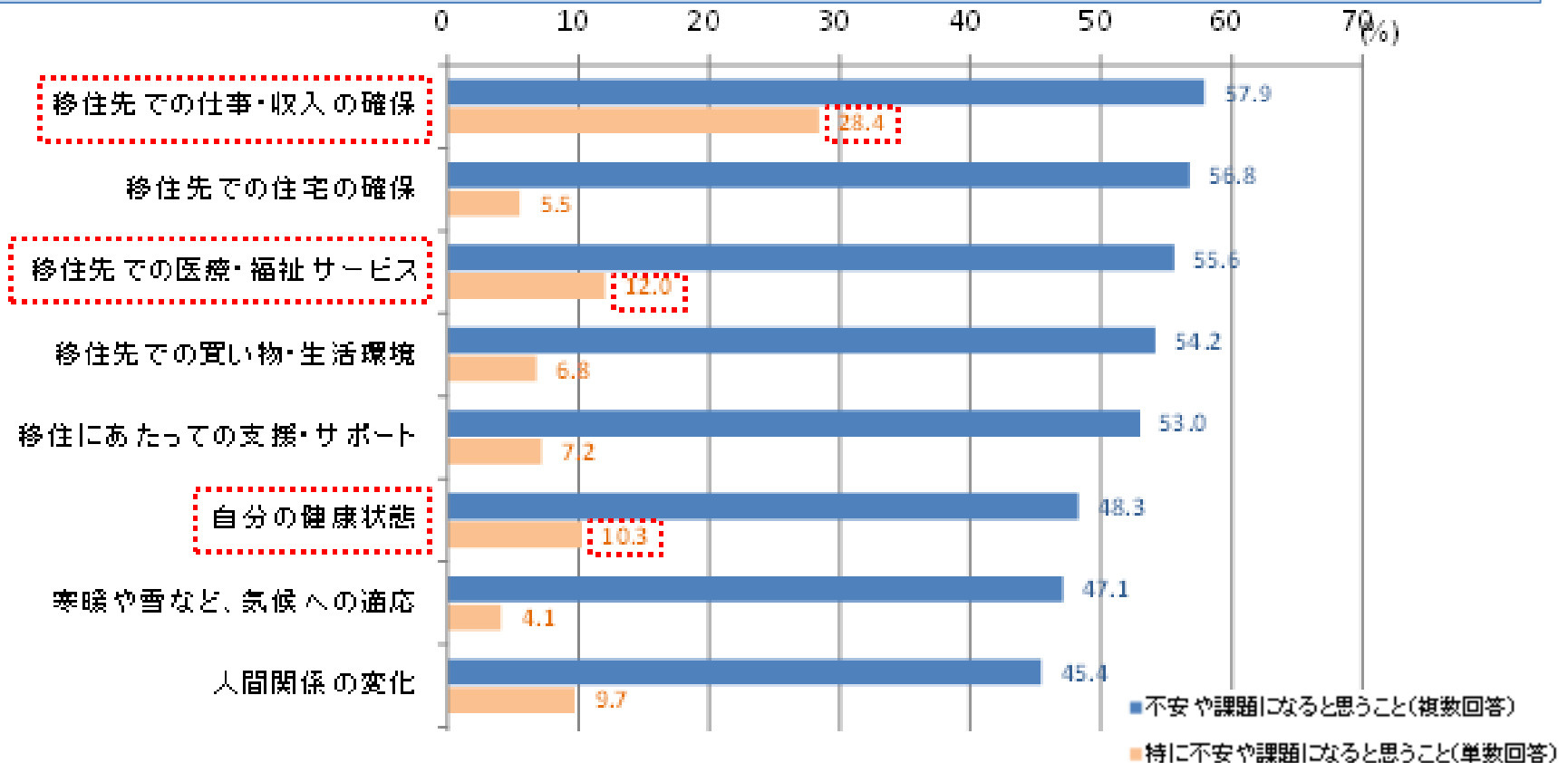
【まちづくり部門】（応募者：建築、都市計画の専門家や商品企画デザイナー等）

- ・移住者にとって魅力的なまちづくりを実現するための、具体的な提案
- ・雪国に適した快適な住環境、地元産材を活用した住宅の提案
- ・地域の景観と調和し、地域に開かれたコミュニティ形成のアイデア

移住先での不安要素（アンケート結果）

Q. 地方に移住する場合、どのようなことが不安や課題になると思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）また、選んだ項目の中から特に不安や課題になると思うものを、1つお選びください。（単回答）

- ・不安や課題になると思うこと、特に不安や課題になると思うことともに「移住先での仕事・収入の確保」が最も多くなっている。
- ・特に不安や課題になると思うことの回答に着目すると「移住先での仕事・収入の確保」に加えて「移住先での医療・福祉サービス」、「自分の健康状態」など、心身の健康に関わる項目の選択割合が高くなっている。



「就業」「起業」「悠々自適」

50歳からのセカンドライフ&地方移住のプランニングを支援

南魚沼での新たな暮らしを応援します -『南魚沼市セカンドライフ塾』

- ◇ 「地方で自分の経験・職歴を生かした」セカンドライフにしたい
- ◇ 「地方で新しいことにチャレンジする」セカンドライフにトライしたい
- ◇ 「地方で悠々自適な」セカンドライフをおくりたい

地域とグローバルをつなぐ「グローバル人材育成」と、新たな移住研修プログラム

南魚沼での新たな暮らしを応援します -『南魚沼市グローバル人材育成塾』

- 特徴1 「グローバル人材」へのキャリアアップのための研修
- 特徴2 グローバルICT拠点を目指す南魚沼市モデルのケーススタディ研修
- 特徴3 「グローバルビジネス」のビジネス・アイデアのケーススタディ研修
- 特徴4 南魚沼地域企業・関係者へのビジネスアイデア提案のコンテスト
- 特徴5 グローバル人材ニーズのある南魚沼地域企業との交流会

グローバル IT パーク構想

Global IT Park Minamiuonuma

南魚沼市役所大和庁舎の空きスペース(1階フロア約250㎡)を改修して16区画のワーキングスペースを整備し「グローバルITパーク」を設置。

海外から16社のIT企業を誘致し、企業集積による産業の振興、雇用の創出を図る。

H28年1月25日～2月1日 IT先進国インド・スリランカでプロモーション実施

H28年2月18日 南魚沼市、民間事業者(アダム・イノベーションズ)、国際大学、新潟県の4者で基本協定締結(IT企業の集積を図る本構想の推進に向けて相互に連携・協力)

H28年8月下旬 インド、スリランカのIT企業を誘致しシェアオフィスを開設(16社を予定)

グローバル IT パークに期待する効果

- ・次世代の画期的な技術の創出する**日本初の国際ITパークとして、**
- ・国際的な企業間連携 ⇒国内中小企業の**海外進出**の足掛かり
世界標準のITテクノロジー供与による生産性の向上
- ・日本企業の**グローバルネットワーク、グローバル・コミュニケーション**の強化
- ・**研究開発と知識共有**の強化

Global IT Park Minamiuonuma

(グローバルITパーク構想)

なぜ南魚沼市なのか？

- ・十分なインフラ施設と大都市とのアクセシビリティ
(新幹線で東京から90分という好立地)
- ・人口規模と周辺企業集積に関して魅力的な自治体
- ・豊富な土地面積による事業拡大の可能性
- ・大都市と比べた際の安価な地価と賃金の安さ
- ・国際大学を通じた世界的な知名度の高さ
- ・新潟県内の企業集積(農業、金属加工、食品等)
- ・良質な食品類(水・米等)
- ・レクリエーション環境(スキー場・トレッキング・スポーツ施設)

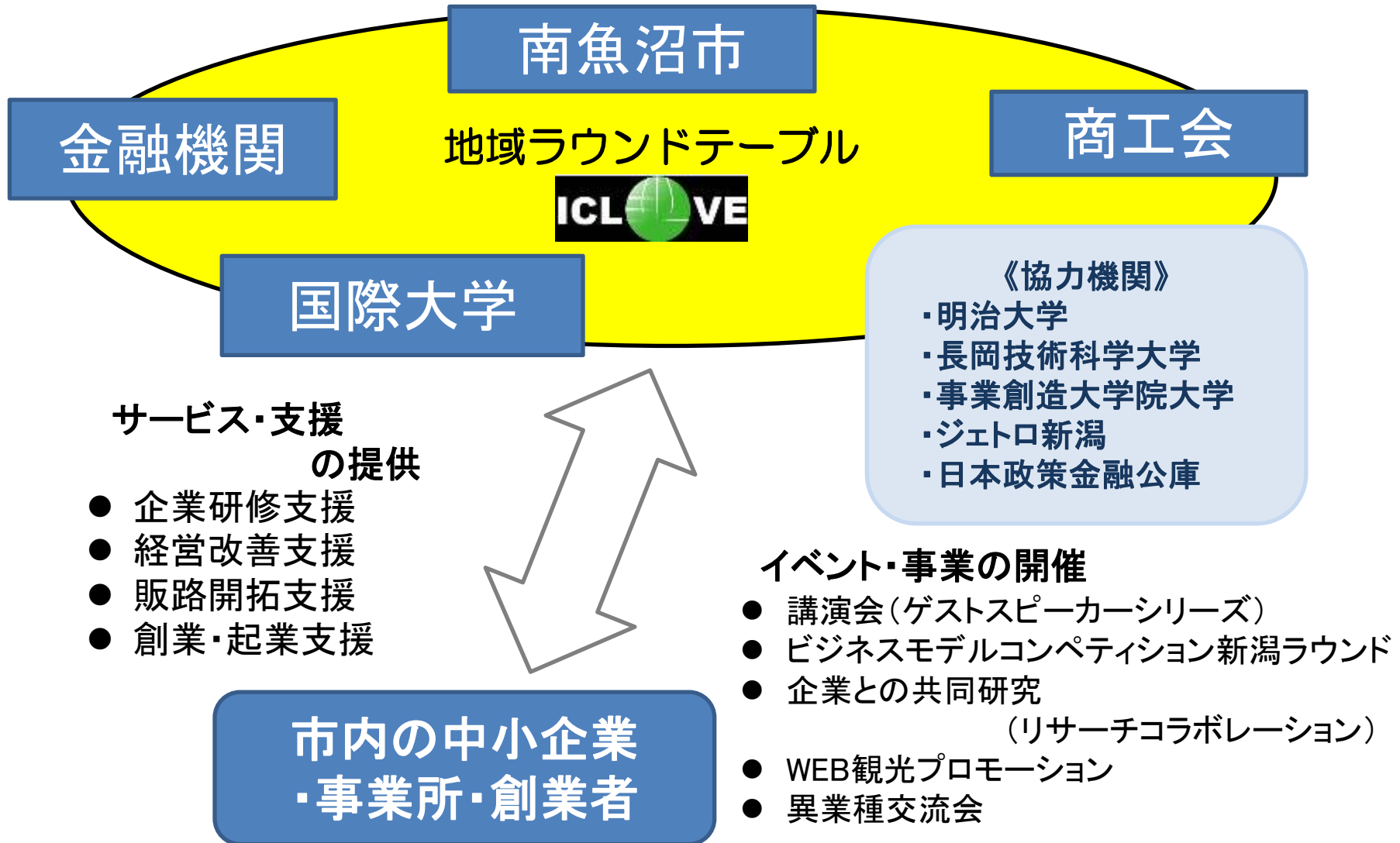


Global IT Park による貢献

- ・次世代の画期的な技術の創出する**日本初の国際ITパーク**
- ・国際的な企業間連携 ⇒ 日本の中企業が**海外進出**の足掛かりに
世界標準のITテクノロジー 供与により生産性が向上
- ・日本企業の**グローバルネットワーク**の強化
- ・**グローバル・コミュニケーション**の強化
- ・**研究開発と知識共有**の強化

ICLOVE (南魚沼市地域産業支援プログラム)

International Collaboration for Local Organizations in Venture and Entrepreneurship Program



地方創生における南魚沼市の活路

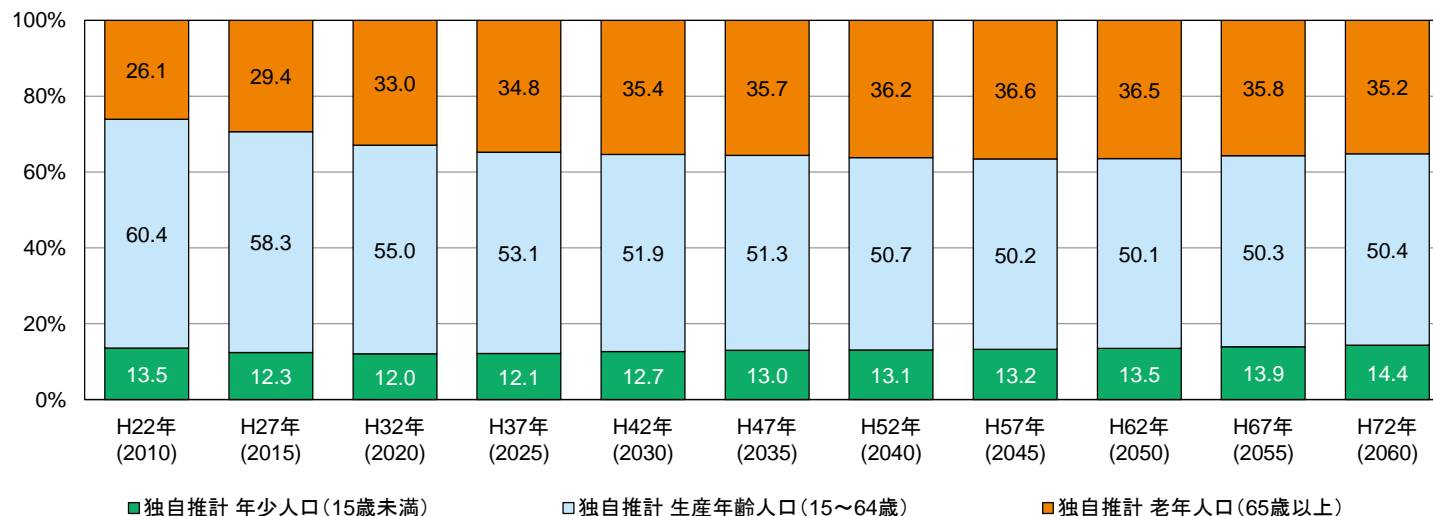
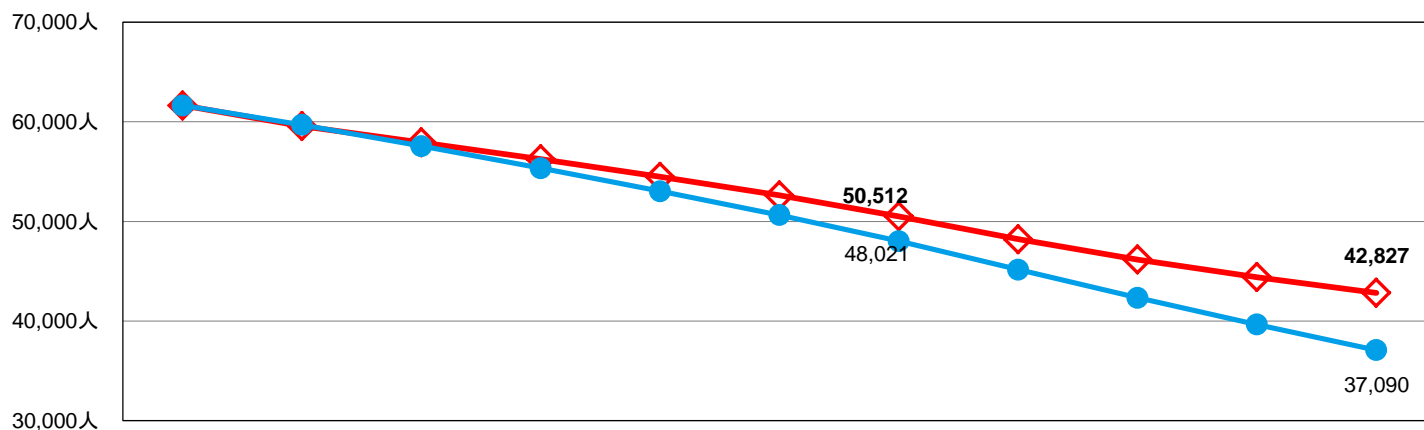
●人口の将来推計（人口ビジョン）

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計

平成52年（2040年）には5万人を下回る さらに平成72年（2060年）には約37,000人に

⇒（人口目標）43,000人を確保（+6,000人）

年齢3区分人口の構成バランスを確保 ⇒持続可能な地域社会



南魚沼市総合戦略

持続可能な社会の実現 : いかに若者の雇用の場を確保できるか

自然・人・産業の和で築く
安心のまち



CCRCが基軸事業

- ・「健康・医療・福祉のまちづくり」モデル(健康長寿社会モデル)
- ・グローバル人材育成モデル (産業振興・教育環境)

ビジネス研究会

※セカンド多ライフ塾

※グローバル人材育成塾

- ・健康医療、農業(食)などを中心としたビジネス研究
- ・新ビジネスの開発(産業創出)
- ・地方へのビジネス拠点移転
- ・多様な雇用の場の確保

GITパーク

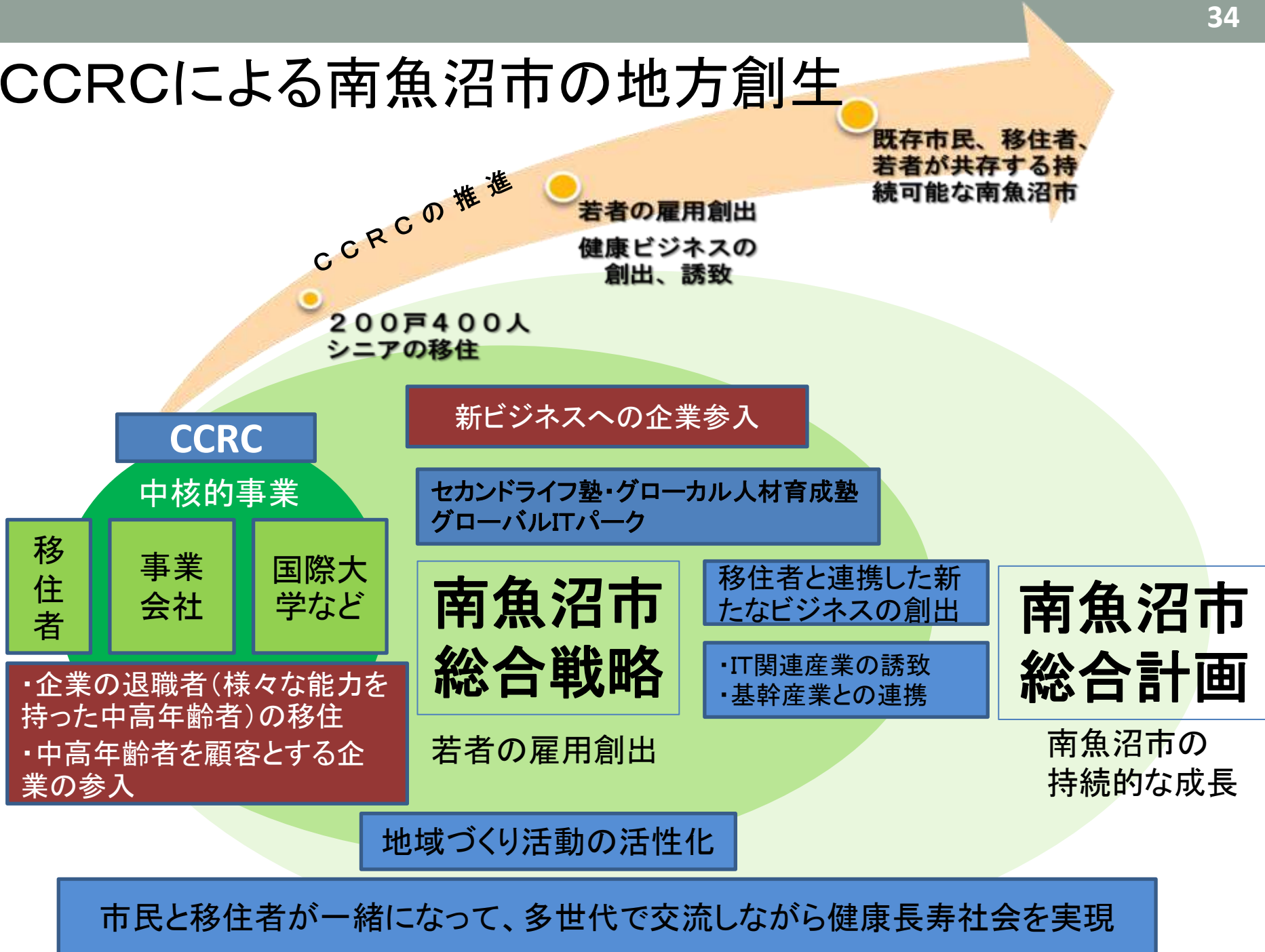
- ・国際大学との連携発展
- ・県内外・海外への展開

産官学金言介医民

など多様な連携

- ・多様な分野のアイデアを結集
- ・事業の連携実施
- ・PDCAによる共有

CCRCによる南魚沼市の地方創生



既存市民、移住者、若者が共存する持続可能な南魚沼市

CCRCの推進

若者の雇用創出
健康ビジネスの創出、誘致

200戸400人
シニアの移住

CCRC

中核的事業

- 移住者
- 事業会社
- 国際大学など

- ・企業の退職者(様々な能力を持った中高年齢者)の移住
- ・中高年齢者を顧客とする企業の参入

新ビジネスへの企業参入

セカンドライフ塾・グローバル人材育成塾
グローバルITパーク

南魚沼市総合戦略

若者の雇用創出

移住者と連携した新たなビジネスの創出

- ・IT関連産業の誘致
- ・基幹産業との連携

南魚沼市総合計画

南魚沼市の持続的な成長

地域づくり活動の活性化

市民と移住者が一緒になって、多世代で交流しながら健康長寿社会を実現

南魚沼市メディカルタウン構想 ～魚沼基幹病院を中心とした地域連携医療体制の整備～

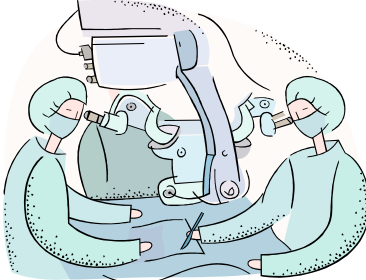
地域の核となる特色ある基幹病院

- 救命救急医療、高度先進医療、災害拠点機能などを整備
- 総合診療医等の養成、医師、看護師等のキャリア形成支援
- 臨床研究の推進

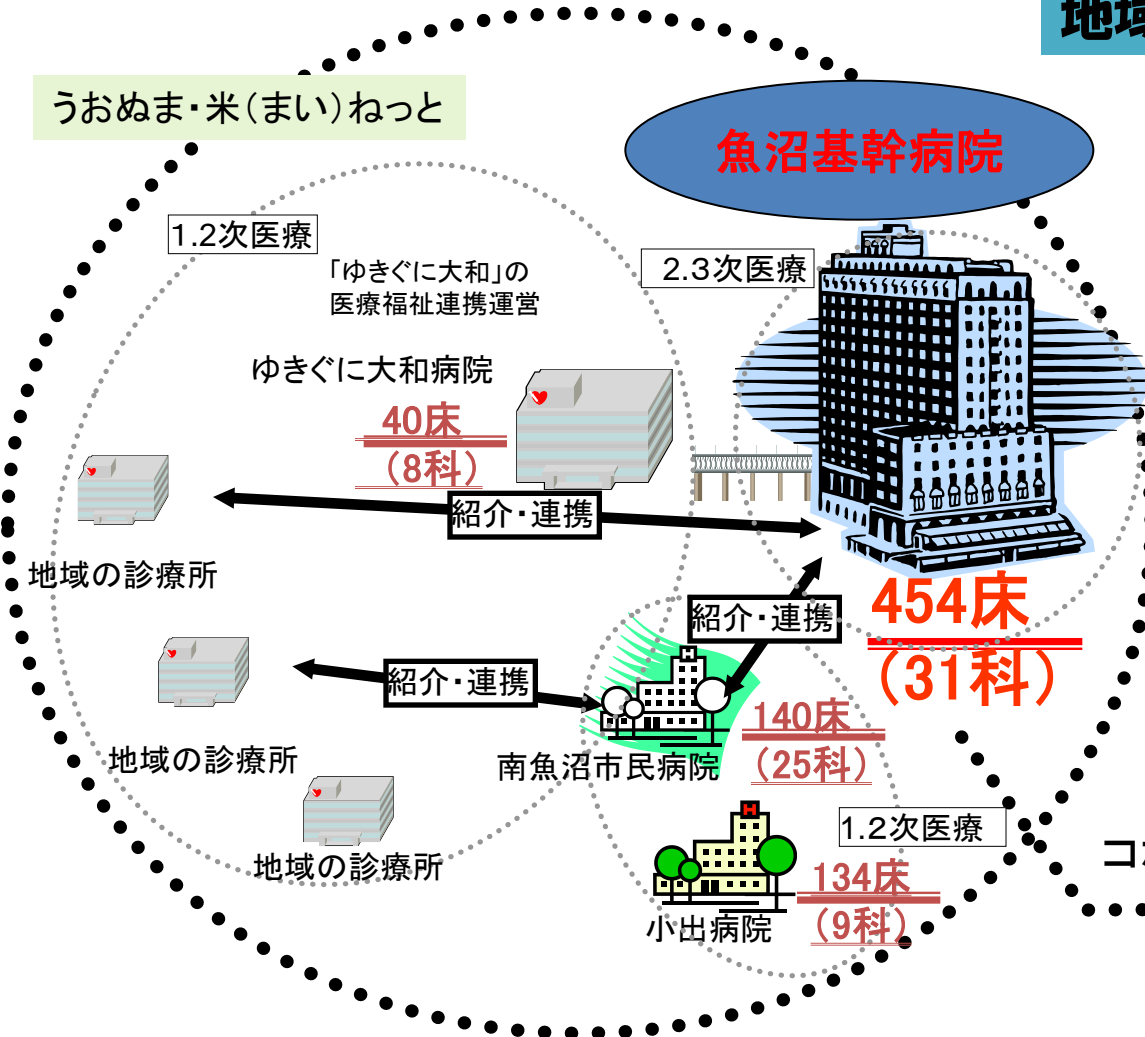


- 地域医療の再編、機能分化とネットワーク化の推進
- 医師、看護師等の医療スタッフ確保

コホート研究



適切な役割分担による医療環境の向上



南魚沼市メディカルタウン構想

～健康医療関連新産業集積と健康長寿のまちづくり～

高等教育機関と連携し、学
園都市を推進 ・大学の誘致

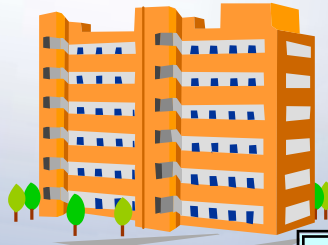
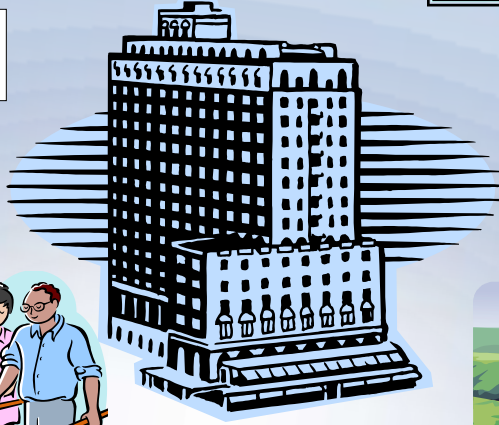
魚沼基幹病院

臨床研究成果の地域への還元

国際大学
明治大学

北里大学
保健衛生専門学院

地域住民の健康増進
農産物の高付加価値化
健康ツーリズム



滞在型療養、リハビリテーション、
医療観光、健康ビジネスの振興等

地域産業の振興

民間投資の誘引

医療・福祉機器、健康食品・医薬バイオ等
研究所・工場の誘致

南魚沼CCRCビジネス研究会 (セカンドライフ塾・グローバル人材育成塾)
Global IT Park Minamiuonuma (グローバルITパーク)

医療スタッフと家族の住まい
患者・見舞い客の滞在施設
定住者向けレジデンス

南魚沼版CCRC

南魚沼版CCRC（検討経過） 地域内外の産学金官連携により推進

2014.10.27 第1回勉強会 60人

「CCRC」とは？

- ・「南魚沼版CCRCのビジョン」
- ・「地方創生との関連性」

2014.12.24 第2回勉強会 70人

南魚沼版CCRCの可能性

- ・南魚沼版CCRC魅力WS

2015.02.18 第3回勉強会 80人

南魚沼版CCRC実現に向けて

- ・第2回勉強会WSのまとめ
- ・推進スケジュール・組織化計画

2015.03.07 地方創生セミナー

30人

- ・2030年の世界と日本の課題
- ・CCRC検討状況報告と意見交換



参加者

第3回勉強会

国際大学、北里大学保健衛生専門学院

八海醸造(株)ほか市内企業、セントラルスポーツ(株)ほか市外企業

北越銀行(株)ほか市内外金融機関

新潟県、(一社)健康ビジネス協議会

市内関係者（女子カ観光プロモーションチーム、既移住者、

メディカルタウン研究委員会、社会福祉法人、議会、南魚沼市)

報道関係者



初雪の八海山

ご静聴ありがとうございました！

新潟県南魚沼市総務部地方創生推進室
TEL025(773)6659 FAX025(772)3055
E-mail ccrc@city.minamiuonuma.lg.jp